

2006 年度 KUIS-CLS

言語学コロキウム・ワークショップ報告

神田外語大学言語科学研究センター(KUIS-CLS)主催の研究発表会(1回)、言語教育レクチャー(1回)、早期英語コロキウム(1回)が以下のような日程、内容で開催されました。

神田外語大学言語科学研究センター研究発表会

日時：2007年1月13日(土) 10:30～15:30

場所：神田外語大学3号館3-103教室

研究発表(1)

Variable Binding in Temporal Adverbial Clauses: Evidence from Ellipsis

高橋 将一 氏 (マサチューセッツ大学アマースト校／
東京大学・日本学術振興会特別研究員)

研究発表(2)

述語のアスペクト特性と統語構造：フェイズ理論を基軸として

山田 昌史 氏 (島根県立大学・専任講師)

研究発表(3)

「ていただく」の機能 - 尊敬語との互換性に着目して -

上原 由美子 氏 (神田外語大学言語科学研究センター・
非常勤研究員)

研究発表(4)

連体修飾節におけるトイウの機能 - 文法化プロセスに
みられる統語的特徴 -

眞鍋 雅子 氏 (神田外語大学言語科学研究科・修士課程)

言語教育レクチャー

講演者：望月 正道 氏（麗澤大学 教授）

演 題：語彙知識の記述と測定および JACET8000 の改訂方法について

日 時：2007 年 2 月 14 日（水）14：00－16：00

場 所：神田外語大学 3 号館 3-103 教室

要 旨

語彙知識はサイズ，深さ(構成)，認知速度という 3 つの側面から記述することができる。しかしながら，語彙習得研究はサイズの記述，一部の語彙知識の深さの記述というように研究に偏りがみられる。これは，語彙知識を記述する方法が十分に開発されていないためである。このワークショップでは，コンピューターでのデモンストレーションにより，サイズのテスト，語彙構成のテスト，認知速度のテストを実際に紹介し，何が測定でき，何が測定できないのかを考察する。さらに，今後どのような研究が望まれるのかを考える。また，大学英語教育学会基本語は 1981 年に初版が出版されて以来 JACET4000 として親しまれてきたが，2003 年に JACET8000 として改訂された。この改訂は，編集方法がそれまでと大きく異なる。この改訂方法について述べる。

(早期英語教育関係)

第四回早期英語教育コロキウム

日 時：2007年2月10日(土) 13:30～16:30

講演者：オーラ・クウォ氏(香港大学)

 ボブ・パウウェル氏(ウォーリック大学)

会 場：神田外語大学3号館3-301教室

要 旨

オーラ・クウォ氏 (Dr. Ora W. Y. Kwo)

香港では、1997年の英国からの移譲に伴い、教育政策が大きく変化しました。このような変革の中で、教師たちは、社会から求められる役割に対応しつつ、教師としての専門性を伸ばすために努力してきました。香港と中国本土の共同研究プロジェクト「教師と研修指導者のアクションラーニング」に長年関わってきたクウォ博士自身の経験を基に、教育改革の中で教師が持つべき指針について、お話しいただく予定です。

ボブ・パウウェル氏 (Dr. Bob Powell)

すべての子どもに外国語学習の機会を与えるための準備が進んでいます。この新たなるチャレンジを目の前にして、小学校現場での準備態勢はどのくらい整っているのか？また、教育行政面では、2010年に予定されている「導入」を睨み、どのような施策が採られてきたのか？さらに、現在行われている外国語学習は、どれほどの成果が上がっているのか？このような問いかけは、日本にいる私たちにとっても、他人事とは思われません。今回の講演では、これらの問題について、諸研究の示唆するところ、そして、パウウェル博士ご自身の見解をお話しいただく予定です。